

No. 56 pp. 1014-1041

1 - VII - 1990

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Kontyū Danwakai

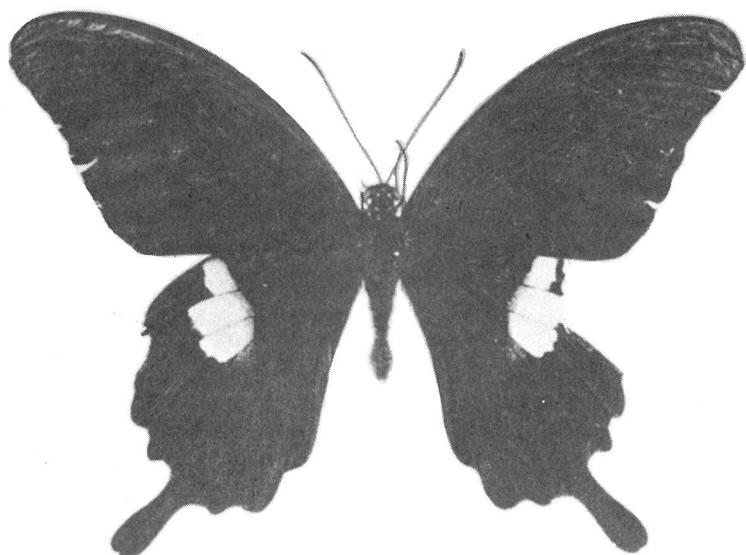


表 紙 の 昆 虫

モンキアゲハ *Papilio helenus nicconicolens* BUTLER, 1881 ♂

1987年8月29日 埼玉県秩父郡大滝村霧藻ヶ峰山頂にて

斉藤 章 採集

ここ10年ほどの間に、県内でも随分アチコチでみかけるようになったモンキアゲハ。それでも、標高1500mを越える大滝村の霧藻ヶ峰の山頂で採集されたのは珍しい記録であろう。

当会の代表は牧林功さんです

市川和夫

以前からお願ひしてきましたところ、この度ご本人からの内諾を得ましたので本年4月1日の総会において『会の代表を交代し、牧林功さんにお願いしたい』ことを提案しました。おかげさまで、当日の出席者全員の賛成により決定しましたのでお知らせします。

新代表の牧林功さんは、鱗翅学会の評議員として活躍され、最近は蝶の保護の問題に深くかかわっていますし、当会のミドリシジミ委員会の委員長でもあります。

著書に『雑木林の小さな仲間たち』『チョウとつきあう本』などのほか、多数の共著があります。皆さんご存知のように、蝶をはじめ昆虫全般について広い知識と、会の運営に関する絶妙のアイデアマンでありますから、当会は今まで以上の発展が期待できます。

顧問の方々をはじめ会員の皆様におかれましては、私へと同様にご支援を下さいますようよろしくお願ひ申し上げます。1963年に埼玉蛾類談話会が発足以来、27年間も会の代表をつとめさせていただき、総会では顧問に推举していただきありがとうございました。これからは、熱心な会員の一人として皆様と過ごさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

い る ま 蛾 報 (5)

井 上 寛

Eupithecia, Chloroclystis ほか2属

*Eupithecia*は小型のナミシャクを含む大きな属で、雌雄交尾器や雄の第8腹節腹枝にある骨片の形を見ないと、種の区別がたいへんむつかしいことが多い。幸いに、雄も雌も交尾器の形態に種の特徴をよくあらわす種が多いため、解剖して調べれば、同定はそれほど困難でない。私は日本産のこの属の研究をまとめ、64種を記載または再記載したが(1979. 大妻女子大学家政学部紀要 15:157-224; 1980. 同上 16:153-213)、蛾類大図鑑ではその全種を図説した。その後、北海道から1新種を記載したので、現時点では65種が知られている。私宅のベランダで灯火採集したものは、上記の論文すべて記録したが、その後とれたものを含めて以下に列挙する。

E.rufescens BUTLER ウスアカチビナミシャク
5-6月にとれるが、たいへん少ない。

E.proterva BUTLER ウスカバナミシャク
3-4月に、かなり多産する。

E.clavifera INOUE モンウスカバナミシャク
3-4月、春にとれる同属種のなかで最も数が多い。

E.niphonaria LEECH マエナミカバナミシャク
たいへん少なく、1975年4月7日と1981年4月12日にそれぞれ1♀が飛来しただけである。

E.antivulgaria INOUE ヒコサンカバナミシャク
1977年11月2日に1♂が飛來した。これが現在わかっている分布の北限である。

E.tabidaria INOUE ハラキカバナミシャク
8月にとれているが少ない。

E.tricornuta INOUE セアカカバナミシャク
1983年4月25日に1♀が飛來しただけである。

E.selinata fusei INOUE オビカバナミシャク
1978年9月8日と1980年9月30日に、それぞれ1♀をとっただけである。

1990年7月

寄せ蛾記56号

E.takao INOUE ハネナガカバナミシャク

1985年3月26日に1♂が来ただけである。

E.repentina VOJNITS & LAEVER フタモンカバナミシャク

1979年4月23日に1♂が飛来しただけである。本種は2化なので9月にもとれるはずである。

私(1980)は、本種を*E.recens* DIETZEと同定したが、学名の適用を誤っていたので、蛾類大図鑑では表記の学名に改めた。

E.emanata DIETZE クロテンカバナミシャク

9月にとれているが、余り多くない。2化なので4-5月にもとれるはずである。

E.virgaureata invisa BUTLER アザミカバナミシャク

4月と9-10月にとれているが、数は多くない。

E.costimacularia LEECH ヨホシナミシャク

1973, 82, 85, 89年の4月上旬に、それぞれ1♀がとれた。

*Chloroclystis*属は、前属にくらべると日本産の種類はなるかに少ないが、東南アジアの熱帯圏では逆に*Eupithecia*より栄えている。しかし、ひとつの属としては、自然群というよりは、種のよせ集め的である。

Ch.consuetra (BUTLER) クロフウスマオナミシャク

5月中旬から6月中旬までのあいだにとれる。やや普通である。幼生期はわかっていないが、ごく近縁の*Ch.rectangulata* (LINNAEUS) リンゴアオナミシャク(幼虫がリンゴやナシの花を食べる)と幼虫の比較研究によって、種の違いを更に明確にする必要がある。

Ch.obscura WEST ハラアカウスマオナミシャク

5-6月にとれるが、前種より少ない。

Ch.vata lucinda (BUTLER) クロスジアオナミシャク

4月と8月にとれる普通種。

Gymnoscelis esakii INOUE ケブカチビナミシャク

1975年10月10日に1♀、1979年11月4日に1♂をとっただけである。

Echthrococca minuta (BUTLER) アオスジナミシャク

4, 7, 9月にとれているが、たいへん少ない。

(いのうえ ひろし 画358 入間市仏子 311-2)

.....

南房総から(2)

小野寺 博昭

.....

衣替えの季節となりましたが、いかがお過ごしですか？ 埼玉昆虫談話会の皆様の顔を思い浮かべながら、各々の分野で張り切っていらっしゃることと南房総から想像しています。

さて、南房総では大した活動をしておりませんので、今回は小堀さんとの間でやりとりした手紙を読んで戴くことで、お茶を濁してしまおうと決意しました。

<小野寺→→小堀文彦氏(1989.5.9)>

『前略 一別以来ご無沙汰していますが、どのようなゴールデン・ウィークを過ごしましたか？ 一部に、北本市から山形方面にヒメギフチョウを探りに行った輩がいるとの噂が流れていますが、眞偽の方はどうでしょうか？

又、桶川市から身重の奥さんを同乗させ、前触れもなく突然訪問してビックリさせようと、通常5時間の道程を10時間掛けて、妻子を桶川ビレジに行かせ蓼科に出張している勝浦市在住の蝶屋を訪ね、空しくUターンした埼玉昆虫談話会のメンバーもいるとか。

更に、勝浦市に移り住んだ蝶仲間と昨年5月に白馬の同一ポイントでギフチョウの採卵を行い飼育した40頭の蛹から次々と見事に普通タイプのギフチョウばかり羽化させることに成功したメンバーがいるとの情報も得ています。どうも埼玉昆虫談話会のメンバーは劇的効果を狙う面々が多いようです。

当方の近況報告については碓井さんあてに「南房総から(1)」を送りましたので、いずれそちらを読んで下さい。

小堀さんと約束していた「蝶日記1989(－その1－ 1/1～4/30)」を同封しましたが、今のような状況では「－その2－」は数ページで終わってしまいそうです。今年は「ゼフィルス等飼育記録表」は付けないことにしました。

1990年7月

寄せ蛾記56号

理由は………ご想像に任せます！

予告したツチハンミョウ、タマムシの1種、カミキリ及びモンキアゲハの卵
4卵を同封しました。それでは又。

草々』

<小堀文彦氏→→→小野寺(1989.5.14~15)>

『前略 お手紙と写真と「なまもの」どうもありがとうございました。それと
ベニモンカラスシジミで土着種カッキリ 200種とのこと、先ずはおめでとう
ございます。戴いた甲虫類、珍奇華麗さに感じ入っております。

- ・アオマダラタマムシ……関東以西に分布。ホストはケヤキ、サクラだそう
です。お電話の時には多分クロホシタマムシの類
だと思っていたのですが。でも当たらずとも遠か
らすでした。初めて手にしました。
- ・ヘリグロベニカミキリ…秩父の川又で採って以来。
- ・ツチハンミョウsp…………同定が難しいのですが、皆野町美の山で採った
ものとは別種のようなので、おそらく初物。
- ・モンキアゲハの卵………5/14, 22:00 p.m. 現在1卵孵化。カラスザンショ
ウにて飼育中。

ゴールデン・ウィークは小野寺さんとは違い、シッカリ9連休戴きました。
周知の通り、山形へ行ったのですが、我々虫屋の行くような所は一般の観光地
と違うので、帰路の東北自動車道以外は渋滞知らずの快適クルージングでした。

今、「蝶日記1989 一その1一」を読み始めたら、面白くて一気に読んで
しまいました。只今時刻は0:55 a.m. 読後感と話の続きは、明日、電車の中
で書くことにします。 それでは、おやすみなさい。

おはようございます。

昨夜は一気に読ませて戴きました。一番共感した部分は、いつか小野寺さんが

電車の中で言ってらした通り、大なり小なりグループの中心になる人の「筆まめさ」と「他人を思う気持ちの強さ」です。書き出す前に10分も頭を悩ませる僕には到底マネの出来ないことです。しかし、「失礼な奴だ！ あいつは『蝶日記1989』はやらん！」と言われないよう、こうして書いています。

ゼフのグラフ、今年はやはり公表しない方が良いと思いまーす。
実際に会っている時のように毒舌や冗談が出るのは仕方ありません。（筆者註；よく言うヨ！） 「その2」もボリュームのあるものにして戴きたく、仕事も多忙でしょうが、是非ワープロを叩いて欲しいと切に希望します。

あと、文中にあった「クロツバメシジミに喰わせたら良さそうな他肉質の植物」…あれは、僕が思うに、タイトゴメのような気がします。もしタイトゴメだとすると、クロツバメは勿論、アポロも飼えるのではないかでしょうか。

僕は Sedum (ベンケイソウ科キリンソウ属) が好きなので、勝浦に行った際に掘りたいと思っています。

話は変わって、ゴールデン・ウィークには山形県鶴岡市と新庄市、秋田県田沢村に行ってきました。鶴岡ではギフチョウの成虫を2回見ました。卵は91卵採れて8割方孵化、現在は2~3歳といったところ。

「88ヶ所」に載っている鶴岡の高館山にも行ってみたかったのですが、それは叶わず、でも峰続の「いこいの村」で飛翔中の1ex. を見ました。もう発生末期だったと思います。「蝶研フィールド」に今年一番乗りは鶴岡ってありましたよね。結構寒い日が続いていたようなので、発生期が長かったのだと思います。標高も低いし、白馬のものと違い、外因性のダラダラではないのかなあ。新庄温泉やその周辺を時間が許す限り回ってみたのですが、収穫はゼロ。サイシンも伸びているし、ヒメギフは終わったみたいでした。

卵も発見出来ず、ギフは内陸部には少ないようで、カンアオイは一株も見つかりませんでした。石塚さんの話と妙に符合するのが恐ろしいです。

大石田にも行って来ましたが、「看板責め」でした。天気のせいかミヤマセセリ1頭しかいませんでしたが、環境が見られただけでも良かったと思います。ワスレナグサが沢山あり、ブルーの花が印象的でした。

田沢湖の周辺で、走行中のランクルの窓からヒメギフを4exs.見ましたが、うち、ボロの1♀を捕まえました。ナラ類の芽ぶきはこれからといったところなのに発生は終わりといった感じでした。又、1~2㌢くらいのトネリコの幼木が湖沿いの植林地の中に沢山生えていて、うまそうでした。

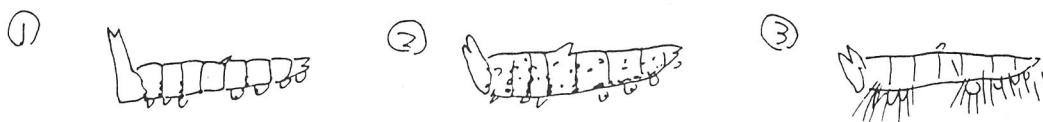
さて、コムラサキは殆ど羽化しました。20頭くらいは成虫になったと思います。中~終齢で黒が生えて死ぬものが幾つかありました。

①最初は腹面の segmentの継ぎ目が黒く点々になる。

②背面にまで回り、体表上にも点々が出て来て、食欲減退。

③一夜のうちにカビが水カビのようになって出て来て、尻から液を出して

死ぬ。実に恐ろしい病気です。



渋谷に着いたようですので、では又いずれ。

草々

<小野寺→→→小堀文彦氏 (1989.5.25)>

『前略 高崎線の通勤途上まで活用して書いたという、ご丁重なお便りを戴き、ありがとうございました。

私の方は、17日から21日まで、業務出張（沖縄のリゾート・ホテル観察）で、12日から梅雨入りしたという沖縄に行って来ました。

初日の17日はレンタカーで那覇空港から沖縄道に入り、終点の許田I.C.で下り

て、なぜか車は真っすぐ名護城址へと向かいました(?)。ここではイシガケチョウが最盛期とみえ、その個体数は断然他を圧しており、まるで他の蝶は生息していないのではないかと思われるほどでした。昨年、思ったより大きいと感激した（知る人ぞ知る）フタオチョウの好観察場所はブルドーザーが入り、環境がすっかり変貌してしまっていました。石段を下りて小さい広場に出ると、ジャノメチョウ科の蝶が出現し、図鑑で頭に叩き込んである、あの白い斑紋が目に飛び込んだではありませんか！

『あっ！ リュウキュウウラナミジャノメ！』と夢中で追い掛け、ネットインしてみると、それは紛れもなく新鮮なリュウキュウウラナミジャノメでした！（203種目） 昨年6月には狙って遠征して来たにも拘らず、ただの1頭も目撃することなく零敗を喫し、今年は『多い時期は6月、10月だから、この時期は未発生の筈だ。』と思い込んでいましたので、まったく期待していなかっただけに、喜びもひとしおでした。ヤエヤマウラナミジャノメなどと異なって、飛翔中は一段と白っぽく見えます。合計3枚を採集し（新鮮なオキナワカラスアゲハを採り損なったことだけが少々残念でしたが）、意気揚々とホテル（自費の場合と異なって、今回は1泊￥23,000也のファイブ・スターのホテルですぞ！）「ラマダ・ルネッサンス・オキナワ・リゾート」に引き揚げたのでした。

翌18日はドシャ降りで、蝶はお休みのため、仕事をしました(?)。

19日は、同行の若手社員を宮古島に（追い）やり、私は一人寂しく(?)、「ホテル日航八重山（以前の「南西グランドホテル石垣」をリフォームし、この4月に新装オープンしたもの）」の調査に向かいました。

未明に、気象台始まって以来という、1時間に 117ミリもの豪雨に見舞われた石垣空港の濡れた滑走路に午後1時に下り立った時には『イヤハヤ、悪いことは出来ないナ。宮古島に向かった方が利口だったワイ。』と思ったのも束の間、根が何事も明るく（都合良く？）考えるタチの私は、素早く態勢を整え、「な

ぎさ荘」に立ち寄って荷物を預け（昨年も「なぎさ荘」には荷物を預けただけで泊まらなかったのです。幾ら何でももうボツボツあの気立ての良い奥さんにも「小野寺さん、うちは宿屋であって、一時預かり所ではありませんよ！」と言われそうな気がします）、早速「蝶屋のリゾート地」裏バンナの調査へと駆け付けたのでした。

ここで最も目に付いたのは、もう採る気もしないヤエヤマカラスアゲハ。そしてアオスジアゲハ、ジャコウアゲハ、ナミエシロチョウ、タイワンキチョウ、リュウキュウアサギマダラ、スジグロカバマダラ、リュウキュウヒメジャノメ、ヤエヤマウラナミジヤノメ、マサキウラナミジャノメ、コウトウシロシタセセリ、ヤエヤマイチモンジ、リュウキュウミスジ、ルリタテハ、スミナガシ、ぼろぼろのコノハチョウ、アマミウラナミシジミ…といったところ。採集したのはナミエシロチョウ、マサキウラナミジャノメ各1頭、ルリタテハ、ヤエヤマウラナミジャノメ、ヤエヤマイチモンジを2、3頭…それだけです。心残りだったのは、又々新鮮なスミナガシを探り損なったこと。（ショット中、採り損なっているのです！）

そのうち又雨が降りだしたので、碓井さん用にトンボ数種とイワサキクサゼミ、そして小堀さん用には、心の優しい私(?)は、カミキリをたった1頭だけ(!)採って、ホテルへと引き揚げたのでした。

第4日目の5月20日は曇り空でしたが、沖縄最高峰オモト岳(526m)を目指しました。目的は勿論、一昨年震えながら1♀を観察したアサヒナキマダラセセリ。午前10時に山頂に至りましたが、まるで湯煙のように冷氣を帯びた雲が、強風に流され、目の前のテレビ塔は、一昨年同様、殆ど見えない天候で、よっぽど下山してしまおうかと思いましたが、ぐっと堪え、粘ることにしました。待つこと凡そ2時間余、漸く1♀が飛来！ シッカリと観察することができたのです！ タクシーとの約束の時間が迫り、タイム・アップ寸前の午後1時30分に又々1♀が登場！ これ又シッカリ観察したのは言うまでもあります

せん。他には（台湾アサギマダラではなく、関東でも見ることの出来る普通の）アサギマダラ♀と私の好きなカンアオイ（独特の点状の斑紋が入ったオモロカンアオイ）数株を採集しただけで、一路石垣空港へと急ぎました。

午後5時頃、（石垣島とは大違いで）今日は一日好天に恵まれたという宮古島に着くと、「宮古島東急リゾート」の南国ムード充分の庭園では、ベニモンアゲハがあの独特の翔び方で乱舞していました。沢山見ると安心してしまい、結局1頭も採集しませんでしたが…。

最終日となった21日の朝は、チェック・アウトまでにシロオビアゲハ♀Ⅱ型4頭と亜種になっているこの島のジャコウアゲハ1♀などを採集し、宮古島から那覇空港に向かい、『業務出張にしては上出来だわい。』と内心ほくそ笑みつつ、JAL 904便スーパーシートの搭乗客となっていました。

ところで、今年1月に小堀さんが根こそぎ(?) 幼虫採集した後の市野川に行き、大釜さんと「小堀さんてえ人はひどい人だね。取りこぼしがないよ。」

「ホント、彼がやった後じゃ草木も生えないよ。ちっとは手加減して欲しいよね。」などとボロクソに言ったり、ボヤいたりしながら採集した、我が家のかつた3頭のコムラサキの越冬幼虫は、最後の1頭がこの沖縄出張中に蛹化し、3頭共コリヤナギにぶら下がっています。それでは又。 草々』

……というワケで、「南房総から」とのタイトルは本来「南房総の状況を知らせる」意図で付けたのですが、だんだん単に「南房総から発したもの」になりつつあります。でも、心寛き埼玉昆虫談話会の方々は許して下さることでしょう。 以上

(おのでら ひろあき 〒299-52 勝浦市松部 2,073)

.....

埼玉県産ゲンゴロウ類の記録

阿部 光典

.....

埼玉県に分布しているゲンゴロウ類（コップゲンゴロウ科とゲンゴロウ科）については、すでに斎藤（1978）、阿部・笹井（1986）、佐藤（1988）が報告している。筆者は、さらに追加すべき記録をもっているので報告する。いずれも県初記録種である。すべて筆者採集。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

1. ケシゲンゴロウ *Hyphydrus japonicus* SHARP

1頭. 越生町大谷, 5.X.1988.

湿地で得られた。近隣諸県における分布状況から判断して、もっと個体数が多くてもおかしくないのであるが、なぜか発見されていない。

2. コシマチビゲンゴロウ *Potamonectes hostilis* (SHARP)

1頭. 嵐山町都幾川, 4.IV.1988.

「オオムラサキの森」近くの都幾川河川敷にできた水溜まりで多数のチビゲンゴロウとともに泳いでいた。この種は低山地の河川で発見されることが多く、平野部では少ない。上流から流ってきた個体かも知れない。

3. サワダマメゲンゴロウ *Platambus sawadae* (KAMIYA)

1頭. 北本市石戸宿荒川流域, 25.VII.1988 ; 1頭. 秩父郡大滝村入川, 5.VIII.1989.

北本市の個体は荒川流域にある水田近くの水溜まりで得られた。この種は典型的な山地性、かつ溪流性の種なので、このような平地の、しかも完全な止水域で発見されたことは意外であった。おそらく大雨などの影響で上流から流ってきたものと思われる。この水溜まりでは止水性のゲンゴロウであるセスジゲンゴロウとホソセスジゲンゴロウが多数採集された。大滝村の個体は「教科書的」な溪畔で採れたものである。

4. モンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* (SHARP)

1頭. 秩父郡大滝村入川, 5.VIII.1989.

県内では低山地より秩父山地にかけて広く分布しているものと思われる。渓流性の普通種である。

5. コクロマメゲンゴロウ *Agabus insolitus* SHARP

3頭. 秩父郡大滝村入川, 5.VIII.1989.

入川のマス釣り場の上流で発見した。渓流性の種であり、少ない。

これまで斎藤が14種を記録し、阿部・笹井が2種を追加、佐藤が1新種を報告しているので、今回の5種を加えて、埼玉県内に分布しているゲンゴロウ類は合計22種となった。高桑(1987)によると神奈川県では26種が記録されているが埼玉県でも調査が進めば30種くらいになる可能性がある。

[参考文献]

斎藤良夫, 1978; 埼玉県の甲虫, 埼玉県動物誌, 22.

阿部光典・笹井厚子, 1986; 北本市石戸宿の甲虫類, 寄せ蛾記(48):697-698

Masataka Sato, 1988; A New Species of the Dytiscid Genus Copelatus (Coleoptera) from Japan, Elytra, 16(2):123-125.

高桑正敏, 1987; 神奈川県産ゲンゴロウ類資料(1), 神奈川自然誌資料(8):85-88.

阿部光典, 1989; 西丹沢におけるゲンゴロウ類の記録, 神奈川虫報(88):36.

(あべ てるつね 〒143 太田区南馬込 1-38-6)

.....

蝶による環境評価法について

巣瀬 司

.....

特定の地域の蝶相から環境を評価する試みは日浦(1973・1976)や稻泉(1975)、山本(1983)、巣瀬(1986)、田中(1988)、萩原(1989)などにより成されている。しかし、その評価方法は著者により様々であり、田中(1988)以外の方法には私自身、不備な点を感じざるをえない。ここでは日浦(1973・1976)の評価方法を採用した萩原(1989)の報告を基に、その問題点を指摘したい。

本文に入るにさきだち、自費出版の労作を提供された萩原昇氏に謝意を表する。

1 優占種のみの評価について

特定の地域の蝶相のうち、優占種のみを用いて環境を評価して良いのだろうか？ 生物の種と個体数との関係では、当然、数種の個体数が極端に多く、個体数の少ない種がその動物相、植物相の種数の大部分を占める。確かに植物では、優先種で環境を評するが、だからと言って蝶の場合、個体数の少ない種を無視して良いことにならない。むしろ、個体数の少ない種が何種類いるか、そのことがその地の自然度を反映していると言えるのではないだろうか。蝶の場合、樹上性の種は個体数が過小評価されやすい。また、アゲハチョウ科の蝶の個体数は、実際シジミチョウ科やセセリチョウ科の蝶の個体数よりは少ない。例えば年間補正総個体数がカラスアゲハが8匹、ヤマトシジミが10匹の場合、日浦らの方法では、10匹しかいないヤマトシジミだけが評価に使われ、8匹もいるカラスアゲハが無視されてしまう。これは大問題である。

蝶のような昆虫の場合、環境を評価する指標としては単純な多様度指数（森下, 1967）の方が、むしろ日浦らの優占種のみの評価平均値より、すぐれているのではなかろうか。優占種は蝶の場合、環境指標に用いるというより、環境の一応の目安程度に止どめておくべきだろう。

2 評点平均値について

萩原(1989)では、それぞれの蝶に環境、食性、化性、移性、分布に基づいた評点が示され、それぞれの地域での蝶の評点平均値が環境指標になっている。興味深いのは、優占種だけを用いた評点平均値ではなく、萩原氏が直接言及していない「それぞれの地域の全種を用いた場合の評点平均値」である。後者の場合、それぞれの地域の環境の差はほとんど数値には表れていない。確かに「優占種だけを用いた評点平均値」では話のつじつまは合うのだが・・・・。

そもそも私は「ある蝶がいることによって、自然度を低く評価する」ことに反発を覚える。極端な話、都市の中心部では年間補正総個体数が10個体を越える種がいないことがあるだろう。その場合、評点平均値はどうなるのだろうか？帰化植物ばかりの場所であっても、植物が全く無い場所よりは自然度は高く評価すべきだろうし、蝶についても同じことが言えるだろう。

どんな都市周辺の普通種でも最低1点を与え、準好都市種には2点、好都市種には3点を与え、その指数の和を自然度の評価に用いる稻泉(1975)の方法の方が、私には合理的に思えるのだが。

結論

田中(1988)の環境評価法(E R法)は、この紙面で紹介できるほど単純なものではない。蝶を用いた環境評価に関心のある方は、是非原著を読んでいただきたい。私は環境評価法としては田中氏の方法が現時点では最も優れていると思うが（個体数を150分間間に補正する点は別にして）、稻泉(1975)の方法（巣瀬, 1986の方法も同様）も捨てたものではないと思う。と言うのは、稻泉法では蝶にとっての環境の良さ、悪さがストレートな形で表現できるからである。森下(1967)の多様度指数を用いた方法にも、同様の利点がある。ただ、これら的方法では田中氏の方法のように、より詳細な内容の分析は出来ない。一方、日浦(1973・1976)の方法は、上述したように欠点が多いと思わざるを得ない。

環境評価は、単に主観に合う数値を示すことによって、評価に客觀性を与えるだけでなく、より具体的な解析が可能なものでなければならないと思う。

1990年7月

寄せ蛾記56号

引用文献

- 稻泉三丸(1975) 蝶類による自然度の判定、栃木県の蝶（栃木県の蝶編纂委員会・昆虫愛好会編）, 148-160.
- 巣瀬 司(1986) 蝶相から見た見沼たんぼの自然度、イングレッタ、1:4-6（シラサギ記念博物館）
- 田中 蕃(1988) 蝶による環境評価の一方法、蝶類学の最近の進歩（日本鱗翅学会特別報告第6号）, 527-566.
- 萩原 昇(1989) 身近な自然の教材化、個人出版, 160pp.
- 日浦 勇(1973) 奈良県橿原市箸喰及び大阪市長居公園における蝶の生態、自然史研究, 1(7):51-64、(大阪市立自然史博物館)
- (1976) 大阪・奈良地方低地における蝶相とその人為による変貌、自然史研究, 1(10):189-206、(大阪市立自然史博物館)
- 森下正明(1967) 京都付近における蝶の季節分布、自然、生態学的研究（森下正明・吉良竜夫編）, 95-132、中央公論社
- 山本道也(1983) 竜ヶ崎市周辺のチョウ相、流通経済大学論集, 18(1):28-51.

(すのせ つかさ 〒336 浦和市大牧梅所1149-11 春栄マンション203号)

埼玉県産半翅類雑記 (12)

野沢雅美

埼玉県では採集例の少ない2種のカメムシを得たので報告する。

○オオホシカメムシを灯火採集で得る。

オオホシカメムシ科 Largidae の オオホシカメムシ *Physopelta guttata* (BURMEISTER) は、本州以南の分布域を持つ種で、南関東では採集個体も多く記録されているが、埼玉県を含む北関東では個体数の少ない種である。

埼玉県からは、これまででは十文字峠より福島義一氏によって得られた報告がある(野沢1978)。

筆者は、1989年8月12日に児玉郡児玉町金屋にある県立児玉農工高等学校農場内におけるライトトラップにより、体長16.45mmの雌1個体(図A)を埼玉県産のものとしては、筆者自身初めて採集したので報告する。

本種は、ヒメホシカメムシに形態・習性ともよく似ており、アカメガシワの花穂に生活する。体も大きく、前胸背の形、前腿節の棘状突起さらに革質部の黒紋も大きいことなどから区別できる。

○アズキヘリカメムシの記録

埼玉県では、これまでアズキヘリカメムシの採集例は少なく、埼玉の半翅類(1978)によれば、福島義一氏の熊倉山(1 ex. 30. VII. 1972)の記録があるにすぎない。最近、本種4個体を得たので報告する。

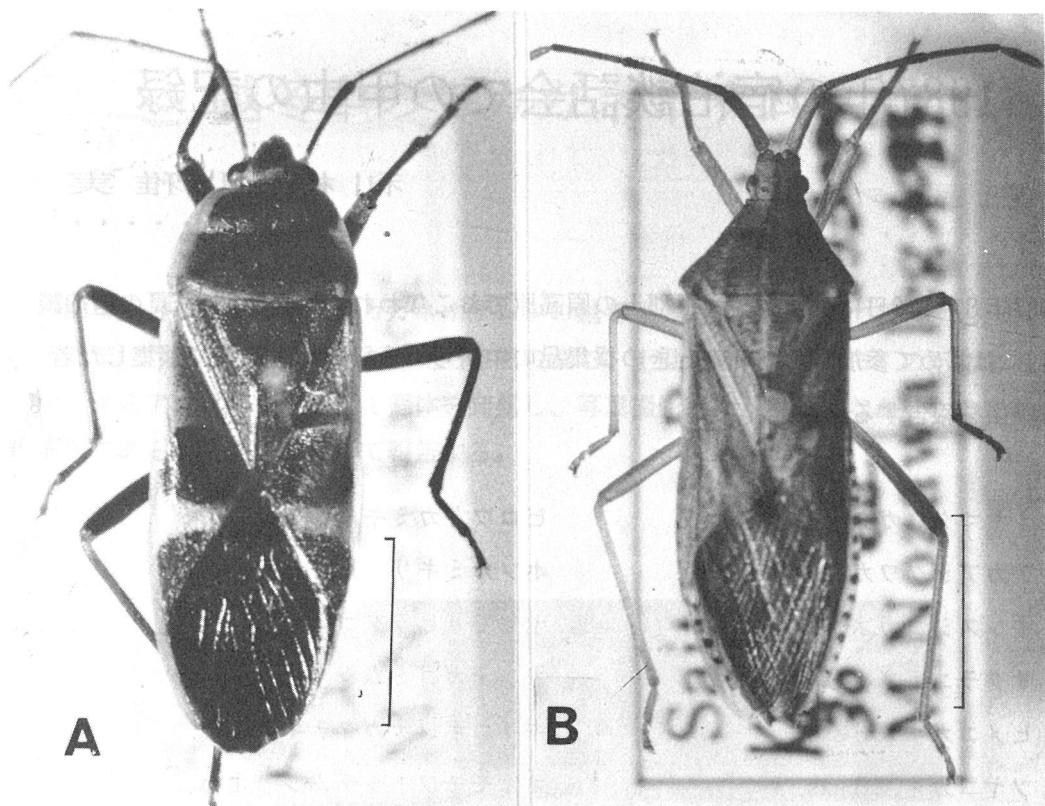
(1) 寄居町桜沢 1♀ 19. IX. 1988.

(2) 吉田町上吉田 1♀ 30. VIII. 1989. 1♀ 4. XI. 1989. (図B)

(3) 長瀬町長瀬 1♂ 4. XI. 1989.

上記採集個体のうち、寄居町および吉田町のものは、いずれも家屋の網戸に止まっていたものである。また、長瀬町の個体は、自動車で走行中にフロントガラスに飛来したものである。なお、吉田町の2個体は水野和夫氏によって採集され、他は筆者の採集したものである。

アズキヘリカメムシは、従来 *Anacanthocoris concoloratus* (UHLER) が用いられてきたが、宮本(1979)によれば *Anacanthocoris* 属とは別属で、触角長や口吻



図A. オオホシカメムシ (オオホシカメムシ科)

図B. アズキヘリカメムシ (ヘリカメムシ科)

Scale; 5mm

長などから検討して、日本産アズキヘリカメムシに *Homoeocerus marginiventris* DOHRN, 1860 を使用した Horváth(1879)の説を適當であるとしている。また、Stålの再記載にも一致している。

貴重な標本を採集・恵与して下さった水野和夫氏にお礼申し上げる。

〈参考文献〉

宮本正一(1979) 日本産異翅半翅類の学名について(4), *Rostria* 31:272.

野沢雅美(1978) 埼玉の半翅類. 埼玉県動物誌 :367.

(のざわ まさみ 〒369-12 大里郡寄居町桜沢 2506-4)

.....

1987年の宿泊談話会での甲虫の記録

利根川雅実

.....

1987年8月8,9日に、群馬県利根郡上の原高原でおこなわれた当会恒例の『夏の宿泊談話会』にはじめて参加した。そのときの採集品の中から、8日の灯火採集で採集した若干の甲虫を報告する。

ミヤマクワガタ	2♂2♀	ビロウドカミキリ	1ex.
アカアシクワガタ	2♂1♀	ホソカミキリ	1ex.
キンスジコガネ	1ex.	ヤセモリヒラタゴミムシ	1ex.
サクラコガネ	3exs.	キンナガゴミムシ	1ex.
ヒメコガネ	6exs.	キイロホソナガクチキ	1ex.
ツヤコガネ	3exs.	オオモモブトシデムシ	1ex.
ツヤスジコガネ	10exs.	クロナガキマワリ	1ex.
セマダラコガネ	2exs.	オオゾウムシ	1ex.
ナミテントウ	3exs.	コシマゲンゴロウ	1ex.
ウンモンテントウ	1ex.	キバネカミキリモドキ	1ex.

なお、同定をおこなって下さった小堀文彦氏に感謝します。

(とねがわ まさみ 番336 浦和市三室 1218-3-807)

1990年7月

寄せ蛾記56号

越冬中のアカガネオサムシ

岩木 晃三

1988年12月に、川口市でアカガネオサムシの越冬個体を発見したので報告する。

1988年12月18日、川口市行衛の見沼自然の家で、土間の物置の“コモ”の下にじっとうずくまるアカガネオサムシ1個体を発見し、写真撮影した。採集しなかったので雌雄は不明であるが、越冬例として報告する。



(いわき こうぞう 番330 大宮市植竹町 1-100 花俣荘 2号室)

寄居町中小前田のウスバカゲロウ類

内田正吉

筆者は、寄居町中小前田において、以下のウスバカゲロウ類を採集しているので報告する。なお、標本はすべて筆者が保管している。

1. ウスバカゲロウ *Hagenomyia micans* (MACLACHLAN)

1 ex. 22-VII-1986

2. マダラウスバカゲロウ *Dendroleon pupillaris* GERSTAECKER

1 ex. 13-VII-1984

自宅の街灯に飛来。牧林(1986)は本種について、「埼玉県に分布すると思われるが、いまのところ未記録である」とあり、本記録が埼玉県初記録であろうと思われる。

3. ホシウスバカゲロウ *Glenuroides japonicus* (MACLACHLAN)

1 ex. 13-VII-1985. 1 ex. VII(中旬)-1986

参考文献

牧林 功(1984). 埼玉県脈翅類ノート 寄せ蛾記 43;556~560

—— (1986). 埼玉県の脈翅類・I 寄せ蛾記 47;664~673

(うちだまさよし番369-12 大里郡寄居町桜沢 1505)

東京都北区でアオバセセリを採集

宮越俊彰

東京都北区西ヶ丘(赤羽駅から徒歩15分)の自宅の庭で、アオバセセリを採集したので報告する。

採集地: 東京都北区西ヶ丘

採集個体: 1♀(やや汚損)

採集日: 1989年8月21日

採集者: 宮越俊彰

故林慶氏も、『新昆虫』に、ミヤマカラスアゲハやアオバセセリが板橋あたりに発生

1990年7月

寄せ蛾記56号

したと書かれたが、まさに「珍客到来」といったところがある。

(みやこし としあき 〒115 北区西ヶ丘 2-27-11)

寄居町桜沢でクワトゲエダシャクを採集

内田 正吉

筆者は、寄居町桜沢においてクワトゲエダシャク成虫を採集しているので報告する。

採集個体：クワトゲエダシャク *Zamacra excavata* DYAR 1♀

採集日：25-III-1989

採集者：内田 正吉

本個体は、平坦地の桑園のクワの幹に静止していたものである。静止の姿勢は極めて特異で、前後翅ともそれぞれ縦に棒状に折りたたみ、前翅は斜め上方に、後翅は後方にまっすぐ伸びていた。しかも体色がクワの幹の色彩に酷似しているので、4枚の翅はまるで幹の一部から突き出している枯れた小枝のように見えた。なお、この桑園は、現在に至るまで約30年間ずっと桑園として利用してきたものである。

本種の記録は『埼玉県動物誌』等の文献からは見いだされず、本記録が埼玉県からの初記録であると思われる。標本は筆者が保管している。

未筆ながら、発表をすすめて下さった市川和夫氏に心よりお礼申し上げます。

(うちだ まさよし 画369-12 大里郡寄居町桜沢 1505)

何と!! 上尾でオオミドリシジミ健在

竹内 崇夫

1990年6月10日(日)、上尾市原市の沼南高校近くの雑木林で、ミドリシジミの発生状況を確認するつもりで長竿を振っていたときである。クリの花から飛び出した個体がまさしくオオミドリシジミの♂であった。若干傷んでいたが、堂々とこの界隈の『幻の蝶』然としていた。この時、他にはミドリシジミ♂(ド完品)、アカシジミ♂(多少ボロ)、ミズイロオナガシジミ♀(ほぼ完品)が観察された。この周辺に似た環境はまだ残っており調査したいで観察例が増えると思う。近くに住む氷室美芳氏に期待。

(たけうち たかお 画330 大宮市丸ヶ崎 10-17)

寄居町にてカノコサビカミキリを採集

内田正吉

寄居町中小前田において、カノコサビカミキリを採集したので報告する。採集データは次のとおり。

採集個体：カノコサビカミキリ *Apomecyna naevia* BATES 1 ex.

採集日：12-VIII-1989

採集者：内田正吉

本個体は、荒川中流域である寄居町中小前田の、荒川に面した段丘斜面において発見したものである。その斜面は南に面したブッシュになっており、付近にはカラスウリがみられた。

埼玉県における本種の記録は、高橋(1984)、武藤(1984)があるが、それらはいずれも県南(新座市野火止と所沢市久米)における記録である。県北西部における記録は今までなかったと思われる所以、ここに記録した次第である。

未筆ながら、文献等の御教示をいただいた小田博氏に心よりお礼申し上げる。

参考文献

高橋秀男(1984). 埼玉県でカノコサビカミキリを採集. 月刊むし, (164):39

武藤修(1984). 埼玉県におけるカノコサビカミキリの採集例. 月刊むし, (164):39

(うちだまさよし番369-12 大里郡寄居町桜沢 1505)

菖蒲町で6月にアブラゼミを聞く

大釜章男

本県の平野部では、アブラゼミは7月下旬あたりが初鳴きのシーズンと思われるが、1990年6月15日に、菖蒲町柏間(かやま)で、アブラゼミの鳴き声を聞いたので報告しておく。なお、鳴いていたのは1個体のようであった。

(おおかまあきお番363 桶川市西 2-10-26)

1990年7月

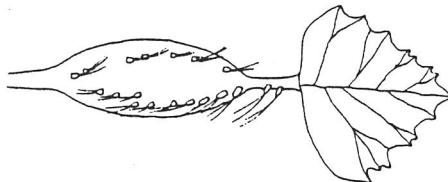
寄せ蛾記56号

ヒメミズカマキリの産卵

鈴木幸

ヒメミズカマキリの交尾から孵化までを観察したので報告する。

- 1990・4・29 北本市でヒメミズカマキリを雌雄未確認ながら5頭採集
6・15 水槽で飼育中のヒメミズカマキリの交尾を観察（夜間）
6・23 ヒシの浮袋に産卵を確認（夜間）産卵数合計38卵（図）
7・3 孵化が始まる。孵化直後は乳白色であるが数時間で褐色に変化。大きさ約5~6mm、ただし成虫に見られる呼吸管は著しく短い。



（すずきみゆき番333 川口市東川口 5-6-24~306）

埼玉県県南平野部における春の蝶の記録

大久保誠

私は1989, 1990年と埼玉県の県南平野部を中心に春の蝶を調査してきたが、今回は春の蝶の代表といえるツマキチョウとミヤマセセリの分布について報告する。平野の良好な自然環境が少なくなってしまった現在、この2種の春の蝶に特に注目して調査した。

まず、ツマキチョウは県内での分布は広くて平地～丘陵にかけていたるところに分布しているが、県南での分布域は最も東京23区寄りのところが朝霞市の下内間木地区で、個体数は少ないが、1989, 1990年と連続して生息が確認できた。蝶の宝庫である浦和市秋ヶ瀬地区では、羽根倉橋寄りのピクニックの森で1989, 1990年の両年とも生息が確認できた（個体数は秋ヶ瀬がいちばん多い）。そしてもう1カ所は富士見市の水子地区で、ここでも1990年にツマキチョウの姿が確認できた。

ミヤマセセリの分布については、1989年は調査が足らなかったのか、県南の平野部からは全く確認できなかった。しかし、1990年には、三芳町の上富の多福寺の雑木林で数

寄せ蛾記 56号

1990年7月

個体が春の光を受けて快活に飛んでは地面や落ち葉、枯れ枝に止まるのをみて非常に感激した。都市近郊でも自然環境が豊かでミヤマセセリの成育に都合の良い条件さえあれば立派に生息できる証拠である。

このように、県南で都市化の波をまともに受け、このチョウたちも生息場所が狭められたりしているが、これらのチョウが珍種になってしまわないよう願っている。

(おおくぼ まこと 〒175 東京都板橋区赤塚 1-29-1)

■ ■ ■ ■ ■ 北本市石戸宿におけるアオサナエの記録 ■ ■ ■ ■ ■

高 橋 衛

北本市石戸宿において、下記のとおりアオサナエが採集されているので報告する。

採集個体：アオサナエ *Nihonogonphus viridis* OGUMA 1♀

採集日 1990年5月19日

採集者 串田 宏人



(写真；採集個体、筆者撮影)

(財)埼玉県野鳥の会の顧問である堀江秀光氏が同会植物調査をおこなっていたところ、林縁に止まっている本個体を発見し、串田氏が採集した。

なお、標本は筆者が保管している。

(たかはしまもる 画330 大宮市土手町 3-285 サンライトマンション 403号)

1990年7月

寄せ蛾記56号

■ ■ ■ ■ ■ 坂戸市でミヤマカラスアゲハの蛹を発見 ■ ■ ■ ■ ■

松永吉明

1989年11月、自宅の庭のキハダ(北海道産のヒロハノキハダ)の枝を下ろしていたところ、ミヤマカラスアゲハの蛹を1つみつけた。蛹は枝下ろし中、樹下の物置の屋根におちていたものである。偏平で体側が鋭角的なカラスアゲハの蛹とちがって、丸みを帯びたミヤマカラスアゲハの蛹の特徴を示していた。

この木からは、数年前にも枝下ろし中にミヤマカラスアゲハの蛹を1個確認したことがある。坂戸市のような埼玉県の平野部での本種の記録は珍しいと思われる所以報告する。なお、今回発見した蛹は羽化にはいたらず、これを筆者が保管している。

(まつなが よしあき 県350-02 坂戸市仲町 2-6)

— — — — 見沼地域昆虫調査のまとめについて — — — —

巣瀬司

1988年4月より取り組んできた『見沼地域昆虫調査』のデータを今年秋頃までにまとめ、来春には『寄せ蛾記48号；北本市石戸宿の昆虫類』と同じ様な体裁で報告書を出したいと思います。つきましては、採集データまたはラベル付き標本をシラサギ記念自然史博物館にお貸しください。必要に応じ、専門の方に同定をお願いしたいと思います。なお、蛾類については直接、市川和夫先生にお渡しして下さい。

大宮、浦和、川口にまたがる『見沼地域』は、昆虫の採集記録が従来なく、たとえ普通種1個体の記録であっても貴重です。調査開始以前のものも含め、是非採集データ、または標本をお寄せください。連絡は、下記へお願いします。

寄せ蛾記 56号 目次

市川 和夫：当会の代表は牧林功さんです·····	1014
井上 寛：いるま蛾報(5) ······	1015
小野寺 博昭：南房総から(2) ······	1017
阿部 光典：埼玉県産ゲンゴロウ類の記録·····	1024
巣瀬 司：蝶による環境評価法について·····	1026
野沢 雅美：埼玉県産半翅類雑記(12) ······	1029
利根川 雅実：1987年の宿泊談話会での甲虫の記録·····	1031
岩木 晃三：越冬中のアカガネオサムシ·····	1032
内田 正吉：寄居町中小前田のウスバカゲロウ類·····	1033
宮越 俊彰：東京都北区でアオバセセリを採集·····	1033
内田 正吉：寄居町桜沢でクワトゲエダシャクを採集·····	1034
竹内 崇夫：何と!!上尾でオオミドリ健在·····	1034
内田 正吉：寄居町にてカノコサビカミキリを採集·····	1035
大釜 章男：菖蒲町で6月にアブラゼミを聞く·····	1035
鈴木 幸：ヒメミズカマキリの産卵·····	1036
大久保 誠：埼玉県県南平野部における春の蝶の記録·····	1036
高橋 衛：北本市石戸宿におけるアオサナエの記録·····	1037
松永 吉明：坂戸市でミヤマカラスアゲハの蛹を発見·····	1038
巣瀬 司：見沼地域昆虫調査のまとめについて·····	1038
総会資料·····	1039
会報·····	1041
編集後記·····	1041